

# いきもの さがし





ひさとくんは 小学4年生の 元気な男の子。  
虫が ちょっぴり 苦手です。

『帰ったら 何しよう。  
昨日は とおるくんと サッカーしたから、  
今日は 家で ゲームしようかな……。』

頭の中は 買ってもらったばかりの  
ゲームのことで いっぱいです。  
そのとき！

「わー！そこのきみ、  
つかまえてくれー！」

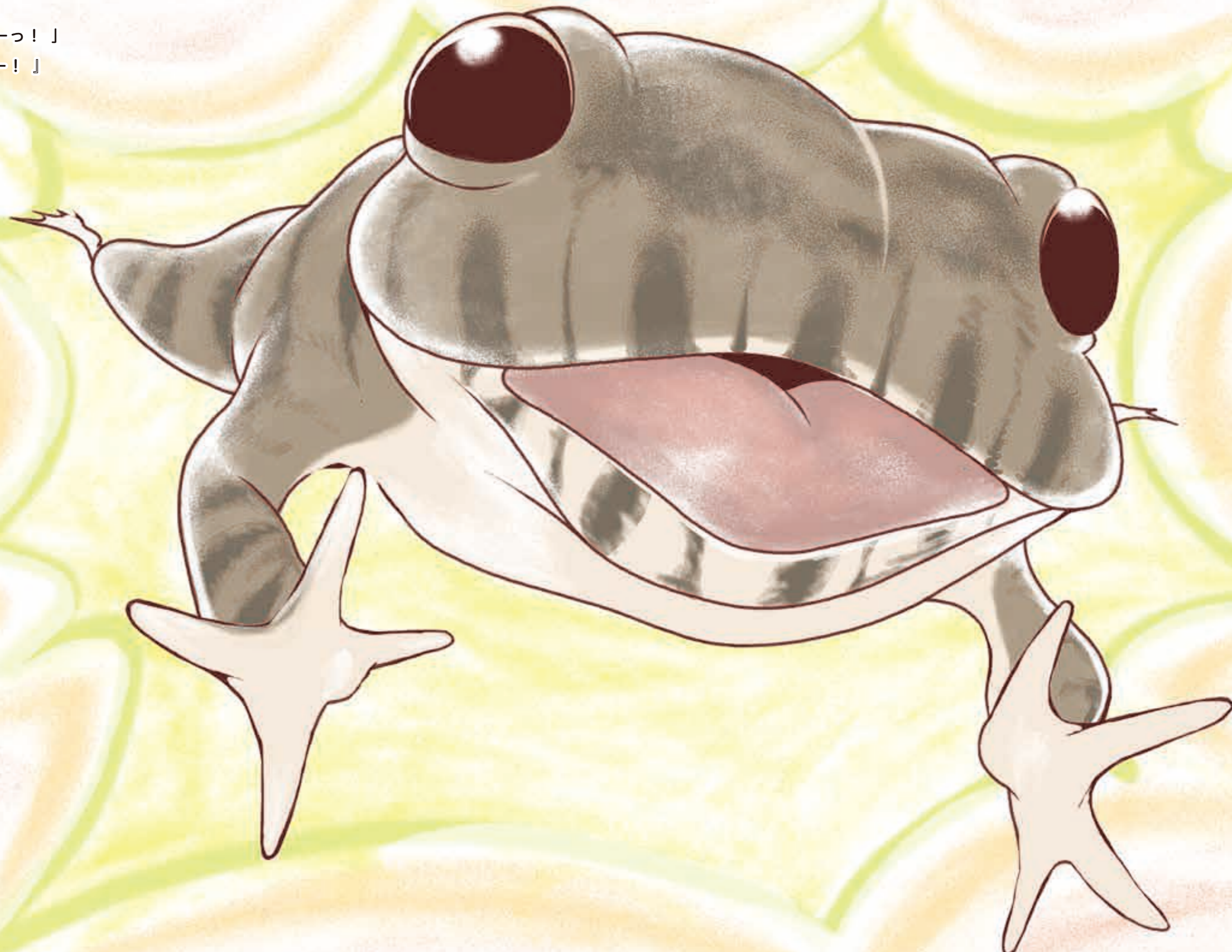
「え？……」

わーっ!!!



「ケローっ！」

「うわー！」



気がつく<sup>かこ</sup>と、大きな緑に囲まれた水<sup>みず</sup>辺に立っていました。

『ここは どこだろう?』

あたりを きよろきよろ見わたす ひさとくん。  
さっきまでいた場所とは ちがう景色<sup>けしき</sup>が 広がります。

「おーい! きみ!」

『あれ? さっきのおじいさん!』

「さっきは おどろかせてしまって すまんな。

だいじょうぶかい?

わしも カエルを 追いかけていて、気づいたら ここにいたんじゃ。

きみは 近くの小学校の子かい?」

『うん。ぼく ひさとって いうんだ!

ねえ、ぼく ゲームしたいから 早く家に帰りたいんだけど。

おじいさん 帰り道は 分かる?』

「わしも よく分らんのじゃ。

……おや? もしかしたら、ここは わしが米を作っている 田んぼの中かもしれんぞ。」

『田んぼの中?』

「そうすると、この大きな植物は 稲<sup>いね</sup>だな……。

よし、まずは まわりを たんけんしてみると しようじゃないか。

おっ、ひさとくん。あっちに 何かいるようじゃぞ。」



さがしてみよう!



ここは 田んぼの中みたい。  
いろいろな 生きものが いるよ。  
何が いるか いっしょに  
さがしてみよう!

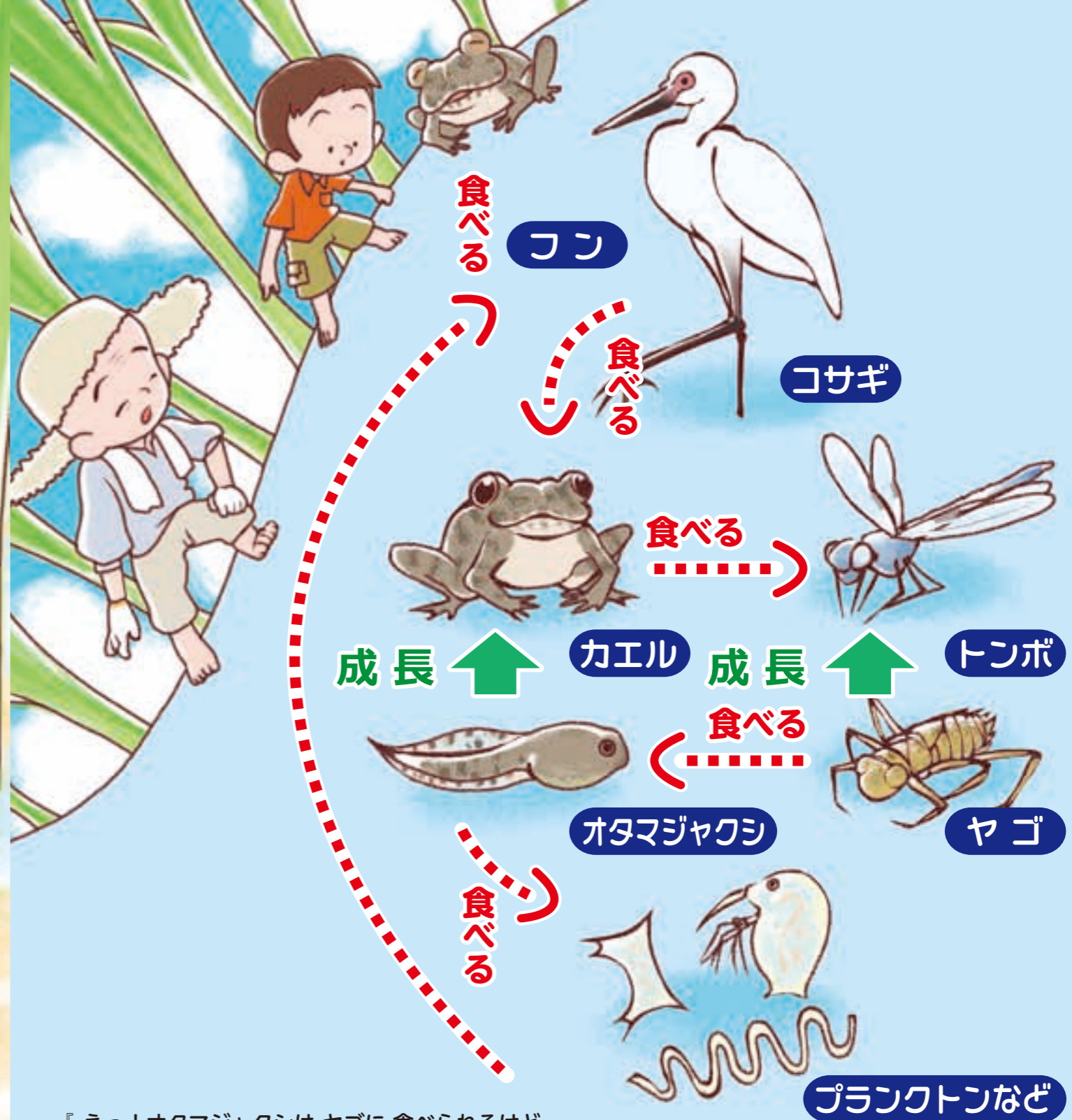
「うわあ、なんか いろんな 生きものがある……。  
 ぼく、田んぼって ただ草が生えている 水たまりかと思ってた。」  
 「ひさとくんは 毎日田んぼの横を通って 学校へ行っているのに  
 知らなかったのか！ 田んぼはな、いろんな 生きものが出て  
 すごくおもしろい場所なんじゃぞ。  
 ほら、この「いね稲」がだんだん大きくなって  
 わしらが毎日食べている お米になるんじゃ。」

「へえ、お米って こんな感じなんだ。  
 でも、食べものを 育てている場所に  
 こんなにたくさん 虫とかがいて いいの？」

「むしろ 生きものがあるから キミたちは おいしいごはんが 食べられるんだケロロー！」

「えっ！ だれ？」  
 「ケロロ、ぼくは ヌマガエル。さっきは 追いかけてくるから びっくりしちゃったケロ。」  
 「あっ、さっき わしが 追いかけていた カエルじゃないか！」

「ケロロ。さっきの話だけど、ここに いろんな生きものが たくさんいるってことが、大事なんだケロロ。  
 水の中には プラクトンや、目には見えないくらいの 小さな生きものがあるケロ。  
 そのプラクトンなどを ごはんにしてるのが ぼくたち カエルの赤ちゃんの オタマジャクシだケロ。  
 それだけじゃないケロ。トンボの赤ちゃんである ヤゴは オタマジャクシを食べるが、  
 ヤゴが成長して トンボになると カエルに食べられ、そんなカエルも コサギなどの 鳥のごはんになるケロ。  
 そして、コサギなどの 鳥のフンや 死んでしまった 生きもののは、  
 プラクトンの ごはんになったり、土のなかの えいようぶん栄養分になったりするケロ。  
 つまり、たくさん生きものがある田んぼは 土の栄養がいっぱいだから、おいしいお米が できるんだケロロ。」

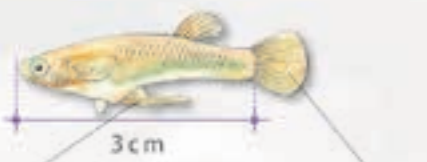


「えっ！ オタマジャクシは ヤゴに 食べられるけど、  
 カエルになったら トンボを 食べるの？ なんか ふしぎ かんけい不思議な関係だね。」  
 「そう？ でもそうやって 生きものたちは 田んぼの中で つながりあって 生きているんだケロ。  
 そのつながりのおかげで、キミたち人間は おいしいお米が 食べられるってわケロロ！」  
 「そうなのか。わしは いつも 田んぼや畑で 仕事をしているけど、  
 そこまでは あまり考えていなかったかもしれんな……。」  
 「けど おじいさんは、できるだけ 農薬を使わないように してくれているケロ？  
 きっと、生きものがいっぱいいる 田んぼや畑がいいって 思ってくれていたのかなって 思うケロロ！」  
 「ははは、そのかわり 草取りがちょっと 大変なんじゃがな。」  
 おじいさんは わらって言いました。

# カダヤシとメダカ

## カダヤシ♂

おす



ほそながい

丸っぽい

## カダヤシ♀

めす

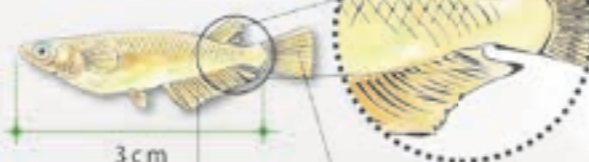


4 cm

はんでん  
青と黄色の斑点

## メダカ♂

おす



大きく長方形

角ばっている

## メダカ♀

めす



2.5 cm

長方形

ていきよう かんきようじむしょ  
提供:中国四国地方環境事務所



「カダヤシとメダカって、とってもよく にているケロ？  
すむ場所や食べものもほとんど同じ。だから 取り合いになってしまうケロロ。  
すると だんだん メダカが すめなくなってしまったんだケロロ。」

メダカだけじゃないケロ。もっと昔は キミの家のまわりにも たくさん田んぼがあって、  
いろんな虫や鳥、魚がいたんだケロロ。でも だんだん 道路や水路が コンクリートになって、  
家もいっばいたって、まわりのようすが 大きく変わってしまったんだケロロ。  
「そうすると 生きものたちのすみかが なくなって だんだんいなくなってしまうんだケロロ。」  
「そうじゃな……このあたりのようすも だいぶ 変わったのう……。」

「田んぼでお仕事している おじいさんでも 知らないことがあるんだね！」  
「しっかり見ないと、気づかないことって いろいろあるケロ！」  
ところで、ひさとくんは 田んぼの水が どこからきているのか 知ってるケロ？  
「田んぼの水は、川から水路を通過して 流れてきているんだケロ。水たまりじゃないケロよ。」  
「へえ、そうなんだ。あっ！魚がいるよ！ぼく 知ってる！メダカだよ。」  
「よく見つけたケロ！でも、残念。あの魚は“カダヤシ”っていう魚だケロロ。」  
「え？メダカじゃないの？」  
「カダヤシは 人間が 別の場所から連れてきた“外来生物”ってやつで、  
もともとは 日本にいない 外国の魚なんだケロ。」  
「え？外国の魚が どうしてここにいるの？」  
「わしが聞いた話じゃと、カダヤシは 蚊の幼虫の ボウフラを 食べるんだそうじゃ。  
だから、蚊をへらすために 持ってこられたそうじゃぞ。」  
「蚊をやっつけてくれるなら いい魚じゃん！」  
「そう思うケロ？だけど この カダヤシが きたことで、  
もともといた メダカが 少なくなってしまったケロロ。」  
「どうして？」



「生きものがいなくなると、そのつながりもなくなってしまうケロ。」

さっきのお米みたいに、キミたちのくらしは

生きものたちのつながりに ささえられているケロ。

だから キミたちにも 生きものたちのつながりを守ってほしいケロ。」

『ぼく、虫とか ちょっと 苦手だったけど、みんな つながり合って 生きていて、

そのおかげで ぼくたちも 毎日 くらしていけるんだね。

つながりを守るって、ぼくは 何をしたらいいの?』

「わしにも できることがあるじゃろうか?」

「ありがとうケロ! じゃあ『いきものさがし』をしてほしいケロ。」

学校の行き帰りや あそびに行ったとき、まわりの田んぼや川、公園や学校の木なんかを

じっくり見てみるケロ。きっと、いろんな生きものに 会えるケロ。

そしてそのことを 家族や友だちにお話するんだケロ。どう? 楽しそうケロ?」

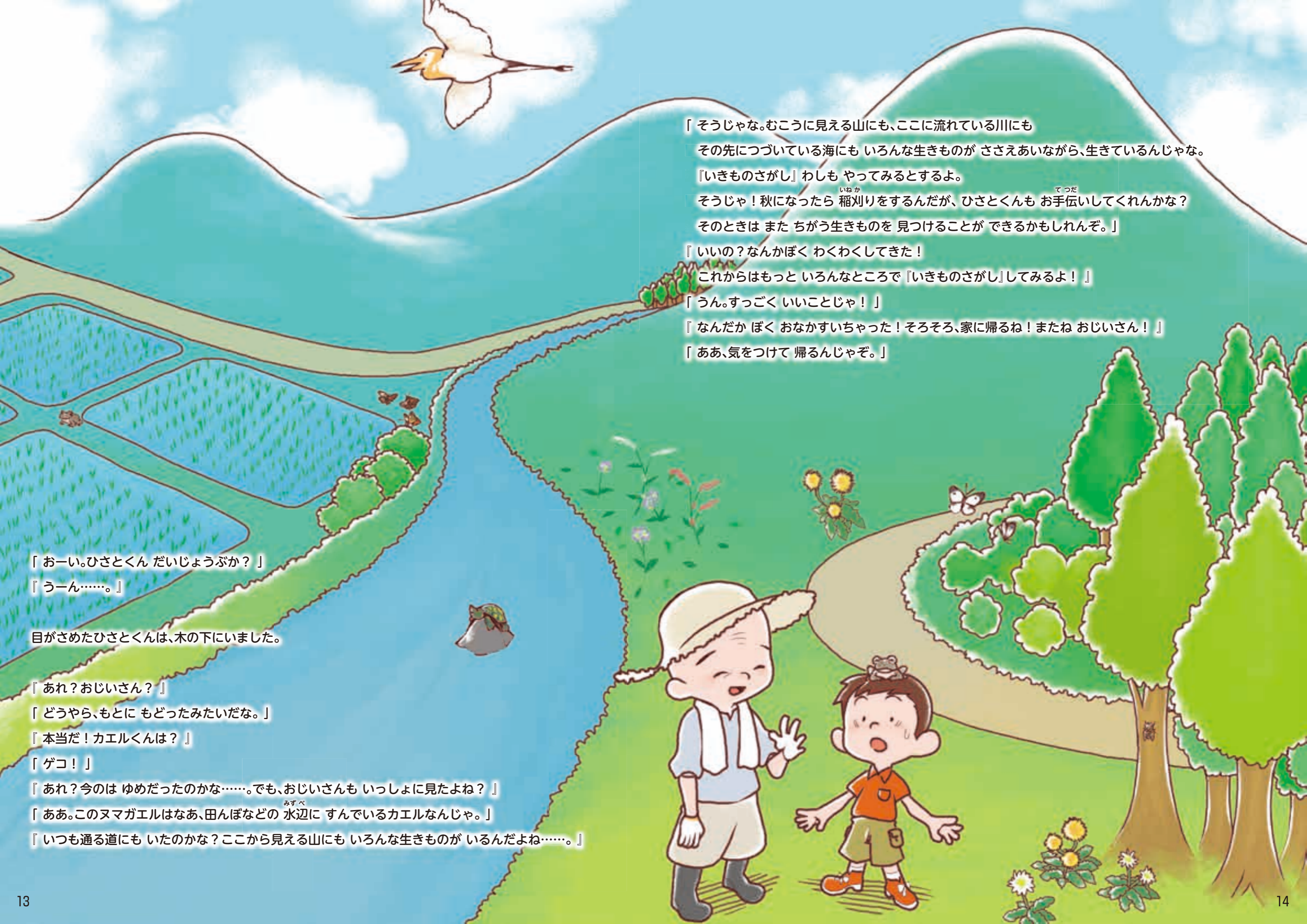
『うん! 楽しそう!』

「まだまだあるケロ。家の中や 学校の中にも、生きもののおかげで できているものがあるかもしれないケロ。それが どうやってできているかを知ることも 大切だケロ。」

『わかった やってみる! さっそく帰ったら、家族に話してみるね!』

「ありがとうケロ! また 田んぼで会えるのを……」

『あれ? カエルくんの声が とおくなっていくよ? カエルくん?……』



「そうじゃな。むこうに見える山にも、ここに流れている川にも  
その先につづいている海にも いろんな生きものが ささえあいながら、生きているんじゃな。  
『いきものさがし』わしも やってみるとするよ。  
そうじゃ！秋になったら 稲刈りをするんだが、ひさとくんも お手伝いしてくれんかな？  
そのときは また ちがう生きものを見つけることができるかもしれんぞ。」  
『いいの？なんかぼく わくわくしてきた！  
これからはもっと いろんなところで『いきものさがし』してみるよ！』  
「うん。すごく いいことじゃ！」  
『なんだか ぼく おなかすいちゃった！そろそろ、家に帰るね！またね おじいさん！』  
「ああ、気をつけて 帰るんじゃぞ。」

「おーい。ひさとくん だいじょうぶか？」  
「うーん……。」

目がさめたひさとくんは、木の下にいました。

「あれ？おじいさん？」  
「どうやら、もとにもどったみたいだな。」  
「本当だ！カエルくんは？」  
「ゲコ！」  
「あれ？今のは ゆめだったのかな……。でも、おじいさんも いっしょに見たよね？」  
「ああ。このヌマガエルはなあ、田んぼなどの みずべ水辺に すんでいるカエルなんじゃ。」  
「いつも通る道にも いたのかな？ここから見える山にも いろんな生きものがあるんだよね……。」



その日の夕ごはん。いつもより、にぎやかな声が聞こえます。

「わー！おいしそう！いっただっきまーす！」

「あら、めずらしい。いつもは おかずだけ 食べようとするのに

今日は ごはんも ちゃんと食べてる。どうしたの？」

「あのね、お米を作ってる おじいさんと

あと カエルくんに 教えてもらったんだ。

ぼくたちが 食べているお米って、お米を 作ってくれる人だけじゃなく、

カエルだったり 鳥だったり 田んぼにいらしている

生きものたちのおかげで おいしくなるんだって！」

「あら、この子……。カエルとか 苦手だったのに……。」

「それでね、それでね……！」

「あ！ぼく 生きもののおかげで できているものを見つけたよ！

まず ごはんでしょ！おみそ汁に入っている わかめとねぎ！

このお魚は 鮭？あと このお肉は……。」

「牛肉だな。ひさとがのんでいいる 牛乳も もともとは 牛だね。」

「おみそやおしょうゆも 大豆を発酵させて 作られているわよ。」

「あっ！ぼくのおはしも 木からできている！テーブルもだ！」

「なるほど、こうやってみると、身のまわりには 生きもののおかげで

できているものが いっぱいあるな。」

「ね！なんか わくわくしてくるよね！」

「よし。今度 みんなで『いきものさがし』やってみようか。」

「うん！ぼく、山に行ってみたい！」

ひさとくんは、今日の 不思議なできごとを 家族に話しました。

おじいさんのこと、田んぼにいた たくさんの生きものこと。

生きものたちのつながりが、わたしたちに たくさんのめぐみを あたえてくれていること。

そして『いきものさがし』のこと……。

さがしてみよう！

家の中にあるもので  
生きもののおかげで  
できているものを  
さがしてみよう！

「あっ！おとうさん！何か動いたよ！」  
「ほんとだな、あれは バッタじゃないか？」  
「このお花 きれいねー。」  
「お兄ちゃん こっちに チョウチョがいる！」

虫が苦手だった ひさとくんでしたが、今は『いきものさがし』に むちゅうです。  
みんな『いきものさがし』してみませんか？ きっと楽しいですよ！



# 熊本市の自然・生きもの 人と人々の暮らし

このイラストは、わたしたちがくらす熊本市の生物多様性をあらわしたものです。

阿蘇山と有明海の間に位置する熊本市は、山、森、里、海などのさまざまな自然があり、多様な生きものたちが生きています。阿蘇山から有明海まで、それぞれの環境のなかで形づくられた、生きものたちのいとなみやかわり合い(生態系)が白川・緑川などの河川でつながれ、豊富な地下水や農産物、水産物、そのほかさまざまなめぐみをもたらし、わたしたちの暮らしをささえているのです。



クスノキ



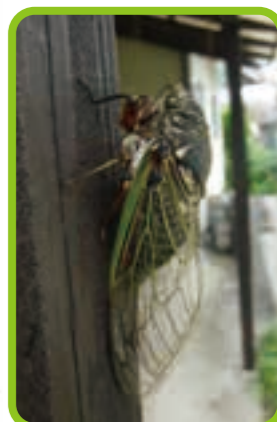
ニッポンバラタナゴ



ムツゴロウ



カヤネズミ



クマゼミ



セイヨウタンポポ



ニホンアカガエル



カワゼミ



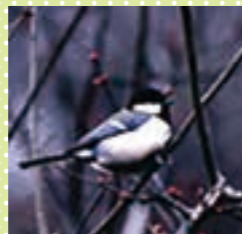
熊本市の木・花・鳥



市木 イチョウ



市花 肥後つばき



市鳥 シジユウカラ



白川



有明海(干潟)



江津湖



金峰山

# 生物多様性のめぐみ

豊かな自然や生きものたちは、わたしたちの暮らしに欠かすことができない、さまざまなめぐみをもたらしてくれています。人が生きるために必要な酸素や水、食べもの、生活するための家や道具の材料やエネルギーをはじめ、その土地の風景や文化なども、自然や生きものから形づくられています。また、森林は土砂崩れを防いだり、街なかの緑は地球温暖化をおさえる効果があります。

## ● 食べもの・木材・薬 など



豊かな農産物・水産物

## ● きれいな水や空気、栄養豊かな土



豊かな地下水

## ● 文化や伝統、風景



自然・生きものをまつる行事  
(南区城南町沈目の大蛇踊り)

## ● 災害を防いだり、地球温暖化をおさえる



土砂崩れを防ぐ森林

街なかの緑

# いま、生物多様性があぶない!

地球上には、およそ3,000万種の生きものがいるといわれています。しかし、人間の活動によるいきょうで、年間4万種の生きものたちが絶滅していると考えられています。生きものが少なくなったり、いなくなったりすることで生態系のバランスがくずれ、生物多様性も失われてしまいます。

# 生物多様性の4つの危機

● 森林のばっさいや道路などの開発で、もともとそこにすんでいた生きものがすめなくなったり、めずらしいなどの理由で乱かくされたりして、生きものが少なくなってしまう。



● 外来種(もともとその地域にいなかった生きもの)がふえ、もともとそこにすんでいた生きものたちのつながりやバランスが失われてしまう。



● 里山などが人の手で管理されなくなり、その環境では生きものがくられなくなる。また、放置された林でシカやイノシシがふえ、農作物の被害が問題になっている。



● 地球温暖化など、地球全体にかかわる環境の変化に生きものが対応できずに、今の場所ではすむことができなくなってしまう。



# 生物多様性を守るためにできること

わたしたちや未来の世代が、これからも熊本市の豊かな自然や生きものたちがもたらす、生物多様性のめぐみを受けながら生きていくためには、わたしたちひとりひとりが生物多様性を守るために行動していくことが大切です。

わたしたちにできることを考え、はじめてみましょう!

## 身近な生きものを調べてみよう

学校や公園、神社や寺の大木、小川や水路など、身近な場所を観察してみよう。生きものを見つけたら、どんな生きものか、人に聞いたり、図鑑やインターネットで調べたりしてみよう。



## 自然とふれあおう

森や海、川などに出かけたり、自然観察会や自然体験会に参加したりしてみよう。自然とふれあい、生きものをじっさいに観察することで、そのすばらしさを実感することができます。



## 緑をふやそう

木や草花を植えたり育てたりすることは、生きものすみかや食べものを作り出すことになります。ゴーヤなどで作る緑のカーテンは、省エネや地球温暖化をおさえる効果があります。



## 地元でとれたものを食べよう

地元でとれた野菜や米などをわたしたちが食べることで、多くの生きものがすむ田んぼや畑が守られます。



## ペットは最後まで大切に

外来種として問題になっている生きものの中には、もとはペットとして飼われていた種類の生きものもいます。ペットはけっして逃がしたり捨てたりせず、最後まで大切にしましょう。



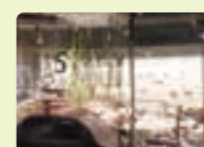
## 野外にごみを捨てない!

捨てられたごみが、川や湖、海などに流れ着き、生きものがすめなくなったり、えさとまちがえて食べるなどして、その命をおびやかしたりします。ごみは決められた場所に捨てるか、持ち帰るようにしましょう。

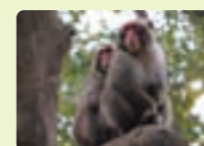


## ほかにはどんなことができるかな? 友だちや家族と一緒に考えてみよう!

### 生物多様性を学べる施設・ホームページ



くまもとほくぶつかん  
熊本博物館  
熊本の生きものや自然について、ジオラマや標本などの展示で学べます。  
熊本市中央区古京町3-2 TEL096-324-3500  
https://kumamoto-city-museum.jp/



くまもとどうぶつえん  
熊本市動植物園  
江津湖をはじめとする熊本の生きものを展示しており、多様性について学べるプログラムも行っていきます。  
熊本市東区健軍5-14-2 TEL096-368-4416  
http://www.ezooko.jp/

くまもと市 かんきょうかんきょうきょく  
熊本市の環境(環境局ホームページ)  
市が行っている生物多様性の取り組みや、イベント・観察会情報をけいさいしています。  
http://www.city.kumamoto.jp/kankyo/

かんきょうしやう せいぶつた ようせい  
環境省 生物多様性ウェブサイト  
生物多様性の解説や、ダウンロードできる普及啓発ツールがけいさいされています。  
http://www.biodic.go.jp/biodiversity/

せい ぶつ た よう せい

# 生物多様性って？

「生物多様性」とは、

<sup>しぜん</sup>自然のなかのいろいろな生きものたちの  
<sup>ゆた</sup>豊かな「<sup>こせい</sup>個性」と「つながり」をあらわすことばです。

地球上の生きものたちは、「食べる・食べられる」、

「虫が花の<sup>かふん</sup>花粉を運ぶ」など、さまざま<sup>かんけい</sup>な関係で

<sup>たが</sup>お互いにつながり合って生きています。

<sup>わたし</sup>私たち人間も、このつながりの中で、

生きるために必要な<sup>ひつよう</sup>食べものや水をはじめとする

さまざまな生物多様性のめぐみを受けながら生きています。

生物多様性はわたしたちのいのちとくらしをささえる

かけがえのないものなのです。



学年・組  
……

名  
……  
前

熊本市環境共生課

2019年作成